

議事録概要

日時 令和5年7月28日(金) 15:00~17:00
場所 檜山振興局4階講堂
出席者 34名(うち 事務局9名、ZOOM参加者11名)

1 開会

司会 北海道檜山振興局保健環境部保健行政室企画総務課 影山課長

2 挨拶

【北海道檜山振興局保健環境部長 信行部長】

保健環境部長の信行です。

本日はご多忙の中、お集まりいただき有難うございます。

さて、今年度は医療計画、感染症予防計画など様々な計画が各都道府県で策定されることになっています。それらの計画を踏まえて、各2次医療圏で来年9月まで地域推進方針を策定しなければなりません。

昨年までは、新型コロナウイルス感染症のため、書面開催が多かったのですが、今年度はできるだけ集合形式の会議を開催し、構成員の皆様から意見をいただき地域推進方針等に反映させたいと考えております。忌憚ない意見をよろしくお願いします。

3 議事

進行 一般社団法人 檜山医師会 坂下事務局長

(1)「地域医療構想等に関する説明」

【北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 竹内課長補佐】

(資料1)【説明】

【質疑応答】

(信行保健環境部長)

49ページの2次医療圏の区域設定の考え方において、道南3圏域の統合について記載されているが、私が江差保健所長として着任してから、当会議(地域医療構想専門部会)では協議されていませんでした。また、昨年の秋に道南3圏域の会議を実施した際に、2次医療圏は現在のままで良いのではないかと意見が出されていたところでした。

道の専門委員会でのどのような話になっているのかご教示願います。

(地域医療課 竹内課長補佐)

ご指摘のとおり、この49ページのみ説明をすると道南3圏域の統合ありきで協議をしていたと誤解を生じさせてしまいました。大変失礼しました。

実は、国の会議で2次医療圏の目安として「トリプル20(トウェンティ)」というのがあり

- ・人口が20万人以上であること
- ・(他医療圏への)流出が20%以上であること。
- ・(他医療圏からの)入院の流入が20%未満であること

の3つ条件を満たしている圏域については、即、統合を実施するということではなく、あくまでも見直しを検討することとしていることです。これは、あくまでも目安ということですので、ご理解願います。道では、2次医療圏について、機械的に国の条件に当てはめ、シミュレーションを行ったところ、道南3圏域の案というのが出てきました。以前から議論が行われているとかではなく、本当に機械的なものであります。

信行所長がおっしゃったとおり、地域では一切の話はなく、昨年開催された3次医療圏の会議で引き続きこの医療圏体制でやっていこうと話になったことも了知しています。委員会では、このような地域での状況もふまえて、医療圏はいじらないということになりました。

(2)「医師の働き方改革について」
【北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 中田課長補佐】
(資料2)【説明】

【質疑応答】
なし

(3)「南檜山メディカルネットワークの進捗状況について」
【地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワーク 関本事務局長】

(資料3)【説明】

【質疑応答】
(信行保健環境部長)

今年になり、新型コロナウイルス感染症において、入院を受けてくれる病院が管内でも増えてきております。道立江差病院においては、この間、積極的に入院患者を受け入れてもらっている経緯もあり、治療や入院等のノウハウをドクターズミーティング等の場を活用して、教えてもらえないかとのリクエストがいくつかの病院からありました。ご検討をお願いします。

(関本事務局長)
ドクターズミーティングや診療連携部会の場において、道立江差病院と協議しながら考えてまいります。

(函館薬剤師会 村木薬剤師)
資料3の法人の連携推進業務において、「薬品、医薬材料等の共同価格交渉」と記載されているが、具体的にはどのように行っていくのでしょうか。

(関本事務局長)
薬品についてはまだ行っていません。医薬材料について、昨年度から道立江差病院が「共同購買機構」という民間の団体に会員として加入しました。特定の銘柄が交渉により安くなっており、それらの中から必要なものを購入し、効果を上げています。このことについて、法人の会員にどのように広めていくかを検討しているところです。まずは、5月の診療連携部会で各会員に紹介したところです。

(函館薬剤師会 村木薬剤師)
昨年度の法人の連携推進業務において、「フォーミュラリー」の実施について記載があったと思うが、今回は記載されていませんが。

※ 「フォーミュラリー」とは、有効性や安全性、費用対効果などを踏まえ処方できる医薬品を「第一選択薬」、「第二選択薬」等として標準化した投与指針。

(関本事務局長)
「フォーミュラリー」の実施については、今のところ予定していません。

(北海道医師会 荒木アドバイザー)
南檜山圏域は、道で先駆けて「地域連携推進法人」及び「重点支援区域」の認定を受け、先進的な区域であり、アドバイザーとしても期待を持ちつつ、注目している状況です。取り組みの部分で、令和4年度は、重点支援区域データ分析を行っております。デロイトトーマツだったと思いますが、民間の会社がかかなり踏み込んで、分析してくれたと思いますが、法人側からどういった要求をし、どういった回答がなされたのかを教えてください。

(関本事務局長)
デロイトトーマツ社は令和3年度までの契約で、令和4年度からは日本経営に代わり、令和5年度も引き続き日本経営が実施しています。道の地域医療課を通じ、法人の意向が確認され、「救急体制の維持」「連携の方向性」等を提示しました。
日本経営は、道立江差病院・乙部町国民健康保険病院・厚沢部町国民健康保険病院に現地ヒアリングを実施しました。
ヒアリングにおいて、日本経営は病床数、病棟体制や人員の問題等を聴取し、人口の予測、受

療動向、各病院の看護職員一人一人の年齢構成等などから機械的に今の看護体制で病棟体制がどこまで維持できるか等の分析を行ったところです。

法人内では、その分析結果をどう生かすかが課題となっています。令和5年度には病床機能検討委員会という協議する場を立ち上げ、救急を含めて体制の維持や機能分化等に取り組んでいきたいと考えております。

(北海道医師会 荒木アドバイザー)

回答ありがとうございました。この事業を有効的に活用されているようでうれしく思います。今後もいろいろ大変と思うが頑張ってください。

(4) 公立病院経営強化プランの進捗状況について

【檜山振興局保健環境部保健行政室 谷脇企画主幹】

(次の3点を説明)

- ①「公立病院経営強化プラン」の協議については、地域医療構想の協議の場で行うことが国から求められております。
- ②令和4年度又は5年度中に策定することになっています。道立江差病院、乙部町国民健康保険病院、奥尻町国民健康保険病院がこれまでに策定しました。厚沢部町国民健康保険病院は、今年度に策定予定となっており、年明けの会議で報告予定となっています。
- ③「公立病院経営強化プラン」の内容は、項目が決められております。

【道立江差病院 加賀美事務長】

(資料4-1)【説明】

【乙部町国民健康保険病院 宮本事務長】

(資料4-2)【説明】

【奥尻町国民健康保険病院 工藤次長】

(資料4-3)【説明】

【質疑応答】

なし

(5)「今後のスケジュール等について」

【北海道檜山振興局保健環境部長 信行部長】

【説明】

【質疑応答】

なし

4 その他

5 閉会